

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	まちづくり部生涯学習文化課	■担当係	芸術文化係
■評価事業名称	日本現代詩歌文学館管理運営事業		
■事業開始年度			
■評価事業コード	090200 - 116	■会計区分	一般会計
■総合計画での位置づけ	■政策	02 生きる力を育み、文化が躍動するまちづくり	
	■基本施策	04 芸術文化の振興・国際交流の推進	
	■施策	01 芸術文化活動の推進	
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)	■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に特に定めのないもの		
■法令等の名称			
■関連計画の名称	北上市教育振興基本計画(平成28年度～平成30年度)		
■事業の目的と概要	貴重な詩歌資料が良好な環境で保存され、詩歌研究の拠点施設として、利用者が快適に安全に利用できている。展示、貸室、講座、文学館賞贈賞式、雑草園管理公開、施設維持運営、資料収集・分類・保存、レファレンス		

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成30年度事業計画	平成30年度事業量実績
01	日本現代詩歌文学館管理運営事業	全国の詩歌研究者、市内外の利用者	展示、貸室、講座、文学館賞贈賞式、雑草園管理公開、施設維持運営、資料収集・分類・保存、レファレンス等	開館日数 337日、レファレンス件数 257件、来館者数 29,866人

3. 投入コスト情報

(単位:千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
直接事業費	104,847	99,355	119,076	119,495	
人件費	15,862	15,918	1,450	3,151	
その他(公債費・減価償却費等)	30,474	29,302	25,590	25,590	
フルコスト	151,183	144,575	146,116	148,236	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	指標の説明
01	施設利用件数	388	382	320	353	
02	来館者数	31900	28252	28387	29866	利用者数のカウント
03	入場者単価コスト	4.74千円	5.12千円	5.15千円	4.97千円	経費/入場者

事務事業事後評価シート[平成30年度事業]

04	資料単価コスト	3.99千円	5.03千円	5.76千円	5.19千円	経費/資料数
05	寄贈等資料数	37892	28746	25353	28599	

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- A. 順調
- B. 概ね順調
- C. 遅れている

達成状況の分析

詩歌文学館で保存する貴重な詩歌資料は140万点を越え、レファレンス件数も年々増加し、国内唯一の詩歌専門施設としての認知度を高めている。また、常設・企画展や各種講座、ケーブルテレビと共同企画した「俳句でGO！」等の開催により、詩人以外の方々にも詩歌に興味を持ってもらうことができた。

問題点・課題等

特になし

1. 直接的な受益者の範囲

- 不特定多数に及ぶ
- 特定されるが多数に及ぶ
- 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- 類似の事業はない
- 類似の事業はあるが競合はない
- 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響・貢献度

- 事業の廃止により重大な問題が発生する
- 事業の廃止により何らかの問題が発生する
- 事業の廃止による問題は想定されない

4. 市民生活・企業活動への貢献度

- 市民生活・企業活動の維持に不可欠
- 市民生活・企業活動の維持に一定程度貢献している
- 市民生活・企業活動の維持への貢献度は低い

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- 1. で選択した人の大多数(70%程度)
- 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
- 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ニーズが高まっている
- ニーズは変わらない
- ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- 順位が高い
- 順位が中程度
- 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- 先進的またはユニークな事業である
- 他と同程度の事業である
- 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- 民間委託等の拡充は難しい
- 民間委託等の拡充が十分に可能
- 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- 今以上の効率化や改善は難しい
- 効率化や改善を図ることは十分に可能
- 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2,4の補足説明含む)

全国で唯一の詩歌専門文学館として、さらに価値を高める工夫を行いながら、事業を継続していくことが必要である。平成18年度から指定管理者制度導入済み。

■今後の方向性

- I. 拡充
- II. 継続
- III. 縮小
- IV. 廃止・休止
- V. 完了